

## 第 63 回 企業活性化研究分科会・議事録

< 第六三回 2013 年 12 月 14 日 (土) 時間 : 13 : 30 ~ 17 : 00 於 : 専修大学 (神田校舎) >

参加者 : 尼野、石川、井端、木村、小林、齋藤、菅原、夏目、浜田、星野、宮川、山本、渡邊 (13 名)

### 1. テーマ : 競争原理と資本利益率について

・ 講演者 : 山本洋信      ・ 配付資料 : 5 枚

・ 講演内容の要旨

本報告は、資本利益率 (以下、ROE という。) の定理を展開し、ROE が示す値の意味についての説明をおこなった。ROE はその事業経営者や投資家・学者・研究者に経営状況を示す指標として多様な目的で利用されている。企業は自己の経営成績を示す指標、配当性向の動向を示す指標として利用している。企業において、ROE の値は、個々の企業が経営活動を維持・発展させるための政策目標の一つであると考えられる。

本報告では、森脇による「ROE の定理」とその展開を示し、各要素の意味の検討をおこなった。森脇によれば、ROE は総資産利払前当期純利益率 (ROA) と負債運用効率 (EOL) により構成される。ROE 値は、ただ結果としての数値やその変動をみるだけでなく、各値が変化した要因・原因の分析を行える指標として認識出来ようと報告した。

### 2. テーマ : 再生企業の分析 ー日本電気株式会社のケースー

・ 講演者 : 齋藤幸雄      ・ 配付資料 : 5 枚

・ 講演内容の要旨

本報告は、日本電気株式会社 (以下、NEC という。) の財務数値の推移と収益性分析をおこなった。加えて、NEC が取り組んでいる業績改善に向けた再生戦略の実行と再生戦略の効果について考察した。

NEC は、2003 年 3 月期から 2008 年 3 月期までの売上高は減少傾向にあり、2006 年 3 月期には当期純損失を計上している。2009 年 3 月期においては、大規模な人員削減、不採算事業の整理による事業の選択と集中をおこない、巨額の損失や費用を計上し、大幅な業績低下を招いた。翌 2010 年では「ビック・バス」の効果により業績回復の兆候がみられるが、震災の影響で 2011 年、2012 年では赤字に転じていると財務資料をまとめた。

分析内容は、製造業としては有形固定資産の変化が大きすぎる点、事業転換の内容について検討した。また NEC は業務改善を行っているものの、その成果が指標へ表れていないと分析した。今後の課題として、NEC は生き残りをかけた戦略の成否、多額の研究開発費、ソリューション事業などの動向を注視する必要がある。また今回は時間的制約があり、分析が充分でない部分もあり、次回の分科会で補足説明をする予定である。

(文責 : 浜田勇毅)